

平成30年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

令和元年5月
久慈市（岩手県）

○計画期間：平成26年4月～令和2年3月（6年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成30年度終了時点（平成31年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市では、平成19年5月に認定を受けた「第1期久慈市中心市街地活性化基本計画」の計画期間終了に伴い、「第2期久慈市中心市街地活性化基本計画」を策定し、平成26年3月に国の認定を受け、引き続き、中心市街地活性化に積極的に取り組んでいる。

第1期では、やませ土風館（観光交流センター、物産館等）及び県立久慈病院跡地の整備、巽山公園等の改修を実施し、新たな観光・交流拠点が形成されたため、計画実施前と比べ中心市街地の賑わいが創出されたが、平成23年3月発災の東日本大震災の影響で観光客が激減し、更に、商店会等の自主イベントの中止又は自粛から、中心市街地の交流人口が著しく低下した。

しかし、平成25年4月から放送されたNHK連続テレビ小説「あまちゃん」で、当地域が主要ロケ地になったことから観光客が飛躍的に増加、やませ土風館の入館者数も大きく伸び、中心市街地の賑わいが戻ったが、平成28年8月の台風第10号で市内が再び被災、特に中心市街地が甚大な被害を受け、多くの店舗や事業所で休業又は一部で廃業を余儀なくされたことから、大きな経済損失を被るとともに、中心市街地の交流人口が再度大きく減少した。

現在は、国県の支援等により中心市街地の店舗等は概ね再建したため、やませ土風館を中心とした各種イベントが再開されるとともに、「成功店モデル創出・波及事業」及び「空き家店舗対策チャレンジショップ事業」などの各種ソフト事業を実施し、個店の売り上げ増と空き店舗解消に努めながら、魅力ある商店街の形成に努め、交流人口の回復を図っている。

また、核事業のうち「久慈駅前広場整備事業」が完了し、久慈駅前交通広場（駅前ロータリー）及びいつくし広場（イベント広場）が供用開始となったほか、「複合施設整備事業」については、令和元年度末の完成、同2年度のオープンを目指し鋭意工事を進めている。今後も引き続き、やませ土風館と駅前拠点との連携を図り、回遊性の向上を図りながら交流人口の拡大に努め、中心市街地の賑わい創出に取り組んでいく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成25年度 （計画前年度）	平成26年度 （1年目）	平成27年度 （2年目）	平成28年度 （3年目）	平成29年度 （4年目）	平成30年度 （5年目）
人口	1,874人	1,832人	1,763人	1,682人	1,685人	1,628人
人口増減数	△11人	△42人	△69人	△81人	3人	△57人
自然増減数	△14人	△18人	△25人	△23人	△16人	△26人
社会増減数	3人	△24人	△44人	△58人	19人	△31人
転入者数	32人	51人	59人	45人	49人	49人

2. 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

「久慈駅前交通広場」が6月に供用開始し、観光バスの待機場が新設されたことで、中心市街地内を回遊する観光客数が増加したほか、各種ソフト事業の効果もあり、歩行者・自転車通行量及びやませ土風館の利用者数が、昨年度より増加したと捉えている。加えて、関係機関と連携しながら「成功店モデル創出・波及事業」及び「空き店舗対策チャレンジショップ事業」等が着実に実施され、個店の売り上げや空き店舗解消に繋がっており、交流人口の増に寄与している。

一方、目標値から大きく減少する「中心市街地定住人口に係る社会増減数」については、計画に位置づけた関連事業の着実な推進や、既存事業の見直し、新規事業の展開等が必要と思われるが、定住人口問題は中心市街地だけでなく市全体の課題でもあるため、市全体で取り組んでいく必要があるものとする。

令和元年度は、核事業である「複合施設整備事業」の完成を予定し、令和2年度でのオープンを目指している。また、同年度には、三陸沿岸道路が開通予定であり、交流人口の拡大が期待されるなど、中心市街地の活性化に関して大きな転機を迎えることから、この機会を逃すことなく官民が連携し、中心市街地の賑わい創出と市全体の活性化に取り組むことに期待する。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
やませ土風館の集客力を高め、商店街への波及効果を促進する	やませ土風館・複合施設の利用者数	773,659人 (H24)	858,000人 (R1)	782,557人 (H30)	B	④	③
	やませ土風館の商品販売額	504 百万円 (H24)	512 百万円 (R1)	578 百万円 (H30)	A	①	①
駅前地区の再生により中心市街地全体の回遊を達成する	歩行者・自転車通行量	5,508人 (H24)	5,514人 (R1)	3,869人 (H30)	C	③	③
社会増減人口の減少に歯止めをかけ、定住性を向上させる	中心市街地定住人口に係る社会増減数	△74人 (H19～24)	+2人 (H26～R1)	△141人 (H26～30)	C	④	④

< 基準値からの改善状況 >

A: 目標達成、B: 基準値達成、C: 基準値未達成

< 取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類 >

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「やませ土風館・複合施設の利用者数」は、前年度比3,813人増の782,557人となった。観光バス発着場を兼ねた「久慈駅前交通広場」が平成30年6月に供用開始となり、中心市街地を回遊する観光客が増加したことや、10周年を迎えた「やませ土風館」周辺での各種イベントの効果があったものと考えられる。また、やませ土風館と連携しながら、中心市街地の活性化及びやませ土風館の利用促進に寄与する「あまちゃんハウス」の入館者数が、計画当初に見込んだ入館者数以上で推移していることも、要因の一つであると捉えている。

なお、本計画の核施設となる「複合施設」であるが、完成予定を令和元年度末としており、計画期間内に事業効果が発現出来ない状況であるが、これまでやませ土風館周辺で実施していた「観光交流センター魅力向上事業」及び「べっぴん夜市事業」等を、イベント広場である「いつくし広場」でも開催するなど、関係機関と連携を図りながら中心市街地の回遊性向上に努めていくことで目標達成は可能と見込んでおり、引き続き最大限努力していく。

「やませ土風館の商品販売額」は、主要事業の取り組みにより、昨年度に引き続き目標を超える水準を維持しているが、前年比99%の578百万円と微減した。

なお、引き続き、「あまちゃん」や三陸復興国立公園を最大限に活かした取り組みを行い、やませ土風館に観光客等呼び込むことで、年間商品販売額に関する目標達成は可能と思われる。

平成30年度の「歩行者・自転車通行量」は3,869人で、台風第10号で被災した平成28年度比で

107%、平成29年度比は142%（平成29年度は悪天候での調査実施のため参考値）と回復基調にあるが、依然として目標値からは大きく下回っている。

増加の主な理由としては、やませ土風館・複合施設の利用者数の主な増加理由と同様、久慈駅前交通広場の事業効果及び、やませ土風館の各種イベント効果によるものと考えられる。

今後は、「久慈駅前広場整備事業」の事業効果を見込むほか、あまちゃんハウス運営事業や、商店会連合会が実施する空き店舗を利用した交流スペースの活用促進により、目標達成は可能と見込まれることから、引き続き最大限努力していく。

「中心市街地定住人口に係る社会増減数」については、平成26～30年度の増減累計が△141人と大きく基準値を下回り、目標達成には厳しい状況になっている。計画事業の追加を検討したが、社会減は市全体の問題でもあるため、即効性があり、かつ中心市街地地域限定での事業追加は困難な状況にあるが、目標達成のため、既存の「街なか空き家バンク事業」及び「街なか居住促進事業」を着実に推進するほか、引き続き既存事業の更なる周知を図るとともに、市外在住者に市での暮らしを体験してもらいながら移住定住につなげる「久慈市移住体験ツアー」等、市全体で取り組む事業とも連携を図りながら、目標達成に努めていく。

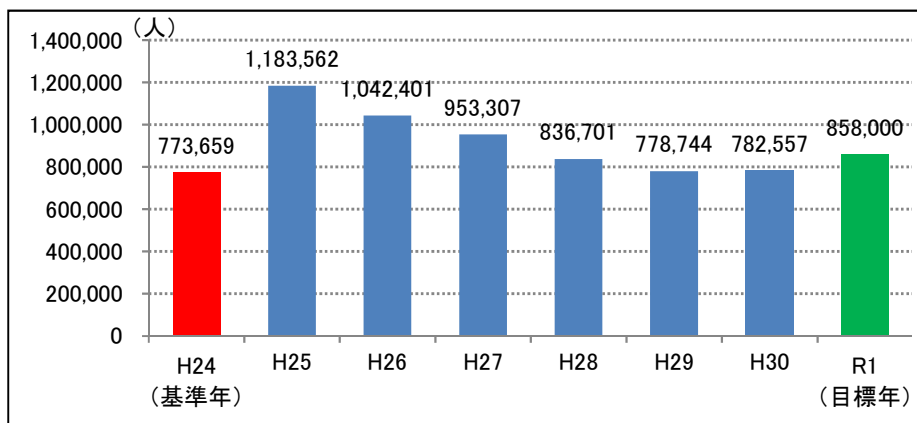
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「やませ土風館・複合施設の利用者数」については、前回フォローアップで④としていたが、平成25年度～平成29年度の利用者数において未計上の数値があったことから、平成30年度フォローアップにおいて遡及し修正を行った。その結果、いずれの年度も基準年値を上回る水準で推移し、かつ、平成30年度の実績は前年度比3,813人増と、計画期間内で初めて増加に転じたことから、計画掲載事業の着実な推進等により、目標達成が可能と見込まれるため③と評価した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「やませ土風館・複合施設の利用者数」※目標設定の考え方基本計画P53～P59参照

●調査結果の推移



年	(人)
H24	773,659 (基準年値)
H25	1,183,562
H26	1,042,401
H27	953,307
H28	836,701
H29	778,744
H30	782,557
R1	858,000 (目標値)

※調査方法：レジ及びカウンターによる計測

※調査月：平成31年4月

※調査主体：施設の指定管理者

※調査対象：施設の利用者

※その他：H25～H29の利用者数について、集計誤りのため前回フォローアップから修正した

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 複合施設整備事業（久慈市）

事業実施期間	平成28年度～令和元年度【実施中】
事業概要	久慈駅前に図書館、地域交流センター及び観光交流センターの機能を有する複合施設を整備する。
国の支援措置名および支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（久慈街なか地区（第2期）））（国土交通省）（平成28年度～平成30年度）
事業効果及び進捗状況	平成28年台風第10号被災の影響で、当初計画より遅い平成30年度に工事着手し、令和2年3月末の完成及び同年7月のオープンを目指して整備を進めている。複合施設の年間利用者数については、46,758人を見込んでいる。
事業の今後について	令和2年3月末の完成及び同年7月のオープンに向け、事業の円滑な進捗を図る。

②. 観光交流センター魅力向上事業（民間）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	観光交流センター「風の館」における定期イベントの開催及び観光PR活動を実施する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成22年度～平成30年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成22年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	観光及び特産品の情報発信や、屋外イベント及び市民カルチャー講座の開催等（平成30年度は延べ8,169名の参加（前年度比+119人））によ

	り、やませ土風館の利用者増が図られ、中心市街地の賑わいの創出と一層の活性化に寄与している。
事業の今後について	引き続き事業を実施し、中心市街地の賑わいの創出と一層の活性化を促進する。

③. あまちゃんハウス運営事業（久慈市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	NHK連続テレビ小説「あまちゃん」関連グッズの展示や販売を行う。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～平成30年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	平成30年度は、27,187名（前年度比▲1,747人）の来場者があり、観光誘客による中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	あまちゃんハウスの入込者数は、過去3ヶ年平均の25,544人を超えており順調に推移している。引き続き事業を実施し、更なる中心市街地の賑わいの創出と一層の活性化を促進する。

④. みちのく潮風トレイル回遊事業（久慈市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	みちのく潮風トレイル枝線を活用し、中心市街地の通過によるウォークイベントを開催する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～平成30年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	平成30年度は7名（前年度比▲19名）の参加者が中心市街地を回遊し、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	情報発信の手法を工夫し、事業の周知を徹底しながら参加者の増に努める。

⑤. ジオサイト・ジオポイント回遊事業（久慈市）

事業実施期間	【未】 [認定基本計画：平成26年度～]
事業概要	駅前複合施設に、ジオサイト・ジオポイント等の案内板を設置するとともに、ジオサイト・ジオポイントの案内人を養成、配置する。
国の支援措置名および支援期間	国の支援措置なし [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	駅前複合施設の整備に合わせ事業を実施する見込みであることから、未実施となっている。
事業の今後について	駅前複合施設のオープン（令和2年7月予定）に併せた事業の実施を予定する。

⑥. 十二支めぐりウォーキング事業（久慈市）【平成30年度追加】

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	久慈版ヘルスツーリズムの一環として実施し、中心市街地近郊にある各干支を祀った神社を巡るイベントを実施する。
国の支援措置名および支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成28年度～平成30年度） [認定基本計画：地方創生推進交付金（内閣府）（平成26年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	平成30年度は271人がイベントに参加し、発着場となるやませ土風館の利用者増に繋がった。
事業の今後について	引き続き、イベントへの参加を促進し、やませ土風館の利用者増を図っていく。

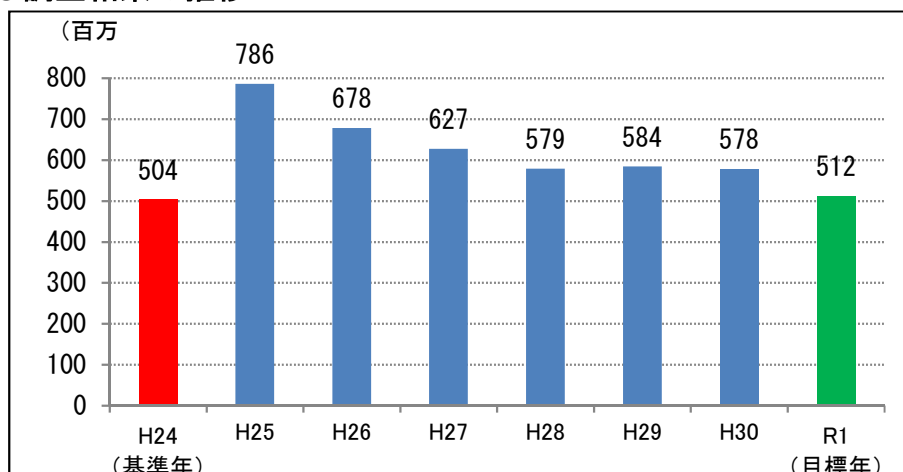
●目標達成の見通し及び今後の対策

「やませ土風館・複合施設の利用者数」は、前年度比3,813人増の782,557人となった。観光バス発着場を兼ねた「久慈駅前交通広場」が平成30年6月に供用開始し、中心市街地を回遊する観光客が増加したことや、10周年を迎えた「やませ土風館」周辺での各種イベントの効果があつたものと考えられる。また、やませ土風館と連携しながら、中心市街地の活性化及びやませ土風館の利用促進に寄与する「あまちゃんハウス」の入館者数が、計画当初に見込んだ入館者数以上で推移していることも、要因の一つであると捉えている。

なお、本計画の核施設となる「複合施設」の完成を、令和元年度末と予定しており、計画期間内に事業効果が発現出来ない状況にあるが、これまでやませ土風館周辺で実施していた「観光交流センター魅力向上事業」及び「べっぴん夜市事業」等について、イベント広場である「いつくし広場」でも開催するなど、関係機関と連携を図りながら中心市街地の回遊性向上に努めることで目標達成は可能と見込んでおり、引き続き最大限努力していく。

「やませ土風館の商品販売額」 ※目標設定の考え方基本計画P59～P62参照

●調査結果の推移



年	(百万円)
H24	504 (基準年値)
H25	786
H26	678
H27	627
H28	579
H29	584
H30	578
R1	512 (目標値)

※調査方法：やませ土風館内の各店舗の商品販売額を集計

※調査月：平成31年4月

※調査主体：(株)街の駅くじ

※調査対象：やませ土風館の商品販売額

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 成功店モデル創出・波及事業（久慈商工会議所）

事業実施期間	平成21年度～【実施中】
事業概要	コンサルタントによる個店指導及びサークル研修を開催する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成22年度～平成30年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成22年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	商店街を形成する個店の魅力向上、商店街の活性化手法の習得に向け、成功店の成果を意欲ある事業者を通じ広く波及させることにより、魅力ある商店街の形成に寄与している。平成30年度は3店舗（前年度比+1店舗）が参加した。
事業の今後について	毎年度3～4店舗の参加があり順調に事業を実施している。引き続き、事業利用を促進し、魅力ある商店街づくりに努めていく。

②. 商業活性化アドバイザー活用事業（久慈市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成28年度【済】 [認定基本計画：平成19年度～]
事業概要	アドバイザー派遣制度を活用し、イベントやサービスなど事業者の自主的な活動を支援する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地商業活性化アドバイザー派遣事業（経済産業省）（平成28年度） [認定基本計画：平成19年度～]
事業効果及び進捗状況	商店街の活性化を図るためには、イベントやサービスなど事業者の自主的な活動も必要であり、専門家のアドバイスにより活動が活発化

	し、中心市街地の活性化に寄与した。
事業の今後について	事業完了

③. 空き店舗対策チャレンジショップ事業（久慈商工会議所）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	新規開業者等が空き店舗にチャレンジショップを開設する際、店舗賃借料の2/3を助成する。
国の支援措置名および支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中心市街地に散見される空き店舗を解消し、商業担い手の育成に寄与している。平成30年度は4件（前年度と同数）の実績があった。
事業の今後について	引き続き、事業利用の促進により空き店舗の解消に努め、中心市街地の売上増を図っていく。

④. 「北三陸・あまちゃん市」事業（民間）

事業実施期間	平成25年度～【実施中】
事業概要	「市日」と連携し、毎月18日に各個店がお買い得セールを実施するとともに、景品の当たる抽選会を実施する。平成27年度からは「まちなか・ありがとう市」に改称。
国の支援措置名および支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	基準年と平成30年度を比較した場合、市日以外の歩行者数は▲1,700人/日の72.7%であったのに対し、市日は▲1,629人/日の80.0%と減少幅が若干緩やかとなっている。本事業の事業効果と捉えており、商店街への波及効果をもたらし、中心市街地への賑わい創出に寄与している。
事業の今後について	引き続き、事業を継続し、中心市街地の賑わい創出を図っていく。

⑤. 「街の駅ネットワーク」事業（久慈商工会議所、民間）

事業実施期間	平成12年度～【実施中】
事業概要	市民のサロンの機能と情報発信機能を併せ持つ「街の駅」の整備と既存商店街へのネットワーク化として、休憩所の設置や案内人の配置等を行う。
国の支援措置名および支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	駅前拠点とやませ土風館の中間地点に位置する休憩所は、イベント等での活用や休憩場所としても多く利用され、中心市街地の賑わい創出に寄与している。
事業の今後について	休憩所の設置等を継続し、中心市街地の活性化を図っていく。

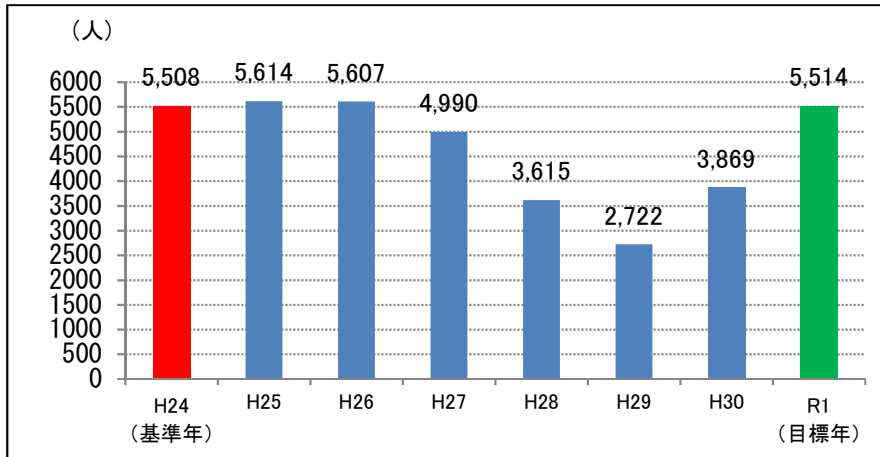
●目標達成の見通し及び今後の対策

「やませ土風館の商品販売額」は、主要事業の取り組みにより、昨年度に引き続き目標を超える水準は維持したが、前年比99%の578百万円で微減となった。

引き続き、「あまちゃん」や三陸復興国立公園を最大限に活かした取り組みを行い、やませ土風館に観光客等を呼び込むことで、年間商品販売額に関する目標達成は可能と思われる。

「歩行者・自転車通行量」 ※目標設定の考え方基本計画P62～P65参照

●調査結果の推移



年	(人)
H24	5,508 (基準年値)
H25	5,614
H26	5,607
H27	4,990
H28	3,615
H29	2,722
H30	3,869
R1	5,514 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

※調査月：平成30年10月

※調査主体：久慈商工会議所

※調査対象：歩行者及び自転車通行者、市内6地点の合計（平日・休日の平均）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 久慈駅前広場整備事業（久慈市）

事業実施期間	平成28年度～平成30年度【済】
事業概要	久慈駅前交通広場の拡大及びイベント広場の新設を行う。
国の支援措置名および支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（久慈街なか地区（第2期））（国土交通省）（平成28年度～平成29年度）
事業効果及び進捗状況	平成30年度末で事業が完了した。来年度は、整備施設を活用した観光誘客に係る事業を実施し、330人/日の交流人口の増加を見込む。
事業の今後について	いつくし広場（イベント広場）等の利用を促進し、更なる賑わいの創出を図る。

②. 路線バス運行事業（久慈市）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	JRバス廃止路線への市民バスの運行を行う。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成21年度～平成30年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成21年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	平成30年度は56,811人（前年度比▲2,833人）の利用者があり、来街者の交通・アクセス面での利便性向上に寄与している。
事業の今後について	利用者が減少傾向にあるが、引き続き事業利用を促進し、来街者の交通・アクセス面での利便性向上を図っていく。

③. 街なか回遊性向上事業（久慈商工会議所）

事業実施期間	平成22年度～平成28年度【済】 [認定基本計画：平成22年度～]
--------	--------------------------------------

事業概要	市民のニーズに適応した効果的な集客イベントを開催する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成25年度～平成28年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成25年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	集客イベントは、日々変化する様々な世代のニーズに的確に対応することが重要であり、効果的なイベント企画により、中心市街地の魅力づくりと、歩行者・自転車通行量の増加による賑わいに創出に寄与した。
事業の今後について	事業完了

④. 駅前コンシェルジュ事業（三陸鉄道株式会社）

事業実施期間	平成23年度～平成28年度【済】
事業概要	三陸鉄道久慈駅に案内人を設置し、各種の情報提供と駅前の賑わい創出のためのイベントを実施する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成25年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	鉄道利用者の視点に立った細やかなサービスを提供することで当市へのリピート率を高め、平成25年度～平成28年度までの平均利用者数は153万人と、基準年の平成24年度と比較して+10万人となった。交流人口の増加と合わせて歩行者・自転車通行量の増加による賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	事業完了

⑤. 街なか交流観光誘客実践事業（久慈広域観光協議会）

事業実施期間	平成23年度～平成28年度【済】
事業概要	JR、三陸鉄道と連携した回遊イベントを実施する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成25年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	交流人口の増加や歩行者・自転車通行量を増加させ、中心市街地の賑わい創出に寄与している。
事業の今後について	事業完了

⑥. あまちゃんハウス運営事業（久慈市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】 ※再掲
事業概要	NHK連続テレビ小説「あまちゃん」関連グッズの展示や販売を行う。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～平成30年度） [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～令和元年度）]

事業効果及び進捗状況	平成30年度は、27,187名（前年度比▲1,747人）の来場者があり、観光誘客による中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	あまちゃんハウスの入込者数は、過去3ヶ年平均の25,544人を超えており順調に推移している。引き続き事業を実施し、更なる中心市街地の賑わいの創出と一層の活性化を促進する。

⑦. 駅前賑わいづくり事業（岩手県旅館ホテル組合久慈支部）

事業実施期間	平成23年度～平成28年度【済】
事業概要	久慈駅前に案内人を設置し、久慈駅を拠点とした観光誘客を実施する。
国の支援措置名および支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成25年度～平成28年度）
事業効果及び進捗状況	平成25年度から平成28年度までの市の平均観光客入込数（宿泊・日帰り）は858千人と基準年の602千人と比較し+256千人となった。当該事業効果も含んだものと考えており、交流人口の増加や歩行者・自転車通行量の増加による、中心市街地の賑わい創出に寄与した。
事業の今後について	事業完了

●目標達成の見通し及び今後の対策

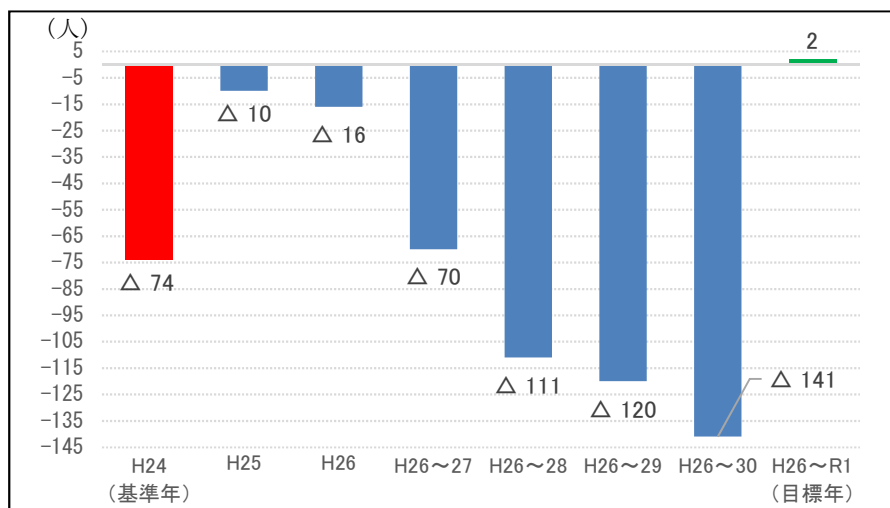
平成30年度の「歩行者・自転車通行量」は3,869人で、台風第10号被災のあった平成28年度比107%、平成29年度比は142%（平成29年度は悪天候での調査実施のため参考値）と回復基調にあるが、依然として目標値から大きく下回っている。

増加の主な理由としては、「やませ土風館・複合施設の利用者数」の目標達成見通しの理由と同様に、久慈駅前交通広場の事業効果及び、やませ土風館周辺の各種イベントの効果によるものと考えられる。

今後は、「久慈駅前広場整備事業」の事業効果を見込むほか、駅前コンシェルジュ設置事業や、商店会連合会が行う空き店舗を利用した交流スペースの活用の促進で、目標達成は可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

「中心市街地定住人口に係る社会増減数」※目標設定の考え方基本計画P65～P69参照

●調査結果の推移



年	(人)
H19 ~ H24	Δ74 (基準年値)
H25	Δ10
H26	Δ16
H26 ~ H27	Δ70
H26 ~ H28	Δ111
H26 ~ H29	Δ120
H26 ~ H30	Δ141
H26 ~ R1	+2 (目標値)

※調査方法：区域内人口に係る自然増減数を把握し、社会増減数を算出

※調査月：平成31年3月末時点

※調査主体：久慈市

※調査対象：中心市街地内居住者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 太陽光発電システム整備事業（久慈市）

事業実施期間	平成26年度【済】
事業概要	地域防災計画で避難場所に位置付ける、やませ土風館に太陽光発電システムを設置する。
国の支援措置名および支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中心市街地に住む住民の避難場所として、災害時には電力の確保対策として機能することから、住民が安心して住むことができる環境づくりに寄与した。
事業の今後について	事業完了

②. 街なか空き家バンク事業（久慈市、民間）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内にあるアパートや借家の情報を収集し、それぞれの物件の特徴について広く情報を提供する。
国の支援措置名および支援期間	国の支援措置なし [認定基本計画：中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成26年度～令和元年度）]
事業効果及び進捗状況	Webなどで情報提供を行い、中心市街地内の物件の選択を促し、定住人口の確保に寄与している。
事業の今後について	周知徹底に努め、事業活用を促進する。

て

③. 街なか居住促進事業（久慈市）

事業実施期間	平成20年度～【実施中】
事業概要	中心市街地外居住者が中心市街地内に住宅を新築し移り住む際、または賃貸住宅を新築する際に助成する。
国の支援措置名および支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中心市街地における人口、世帯数減少の課題解決、定住人口の確保に寄与している。（平成30年度利用0件）
事業の今後について	周知徹底に努め、事業活用を促進する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地定住人口に係る社会増減数」については、平成26～30年度の増減累計が△141人と大きく基準値を下回り、目標達成には厳しい状況になっている。計画事業の追加を検討したが、市の多くの地域でも社会減が問題となっていることから、中心市街地地域限定で、かつ即効性のある事業追加が困難であるが、目標達成のため、既存の「街なか空き家バンク事業」及び「街なか居住促進事業」を着実に推進していくほか、引き続き既存事業の更なる周知を図るとともに、市外在住者に市での暮らしを体験してもらいながら移住定住につなげる「久慈市移住体験ツアー」など、市全体で取り組む事業と連携をしながら、目標達成に努めていく。